

令和5年が明けました。皆さんあけましておめでとうございます。すがすがしい新年を迎えたことと思います。令和5年が諸君にとって、その生涯を一貫して支えるバックボーンを築く年、どんな困難な状況に直面しようとも、しなやかに乗り越え、周囲の人々の人望を集め、導いていくようなバックボーンを築き上げる年になることを願います。

さて、令和元年度の東京大学入学式における、上野千鶴子名誉教授の祝辞が話題になりました。フェミニズム運動のパイオニアで、舌鋒鋭くタブーに対しても動じずに切り込む方。どのような運動でも、その黎明期には過激、過剰が伴うものですが、「あの上野千鶴子が東大の入学式で祝辞」というだけで、世間の注目をしました。インタビュー記事によれば、祝辞原稿をあらかじめ提出する必要があったが、内容について東大から注文はなかったとのこと。上野先生の抜擢も併せ、東京大学の気概、懐の深さを感じさせます。その祝辞のごく一部ですが、むすびのあたりを引用します。

あなたたちはがんばれば報われる、と行ってここまで来たはずですが、冒頭で不正入試に触れたとおり、頑張ってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています。そしてがんばったら報われるとあなたがたが思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったこと、忘れないようにしてください。あなたたちが今日「がんばったら報われる」と思えるのは、これまであなたたちの周囲の環境が、あなたたちを励まし、背を押し、手を持ってひきあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。世の中には、がんばっても報われないひと、がんばろうにもがんばれないひと、がんばりすぎて心と体を壊したひと……たちがいます。がんばる前から、「しょせんおまえなんか」「どうせわたしなんて」とがんばる意欲をくじかれる人たちもいます。

あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれないひとびとを貶めるためにではなく、そういうひとびとを助けるために使ってください。そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください。女性学を生んだのはフェミニズムという女性運動ですが、フェミニズムはけっして女も男のようにふるまいたいとか、弱者が強者になりたいという思想ではありません。フェミニズムは弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想です。

所得格差が社会問題になっています。子ども食堂、生理の貧困などもそうです。奨学金を借りて大学進学したものの、その後返済ができないといった問題もよく聞きます。

厚生労働省による「国民生活基礎調査」によれば、年収の平均値は560万円、中央値は440万円だそうです。そして25年間で、年収は100万円を超えて大幅に下がったそうです。

年収の中央値が、なぜ平均値より120万円以上低いのか。それはごく少数の高額所得者が平均を引き上げてしまうため。さらに言えば、低所得層の数が偏って多く分布しているためです。年収300万円以下が32.6%、全体の3分の1であること、年収200万円以下は19.6%、つまり5人に1人であること、これはGDP世界3位の経済大国とは思えない数値です。

一時期スクールカーストって流行しましたね。クラスの中のカーストによって交友関係が制約されるというのは、私の過ごした昭和にも、中学校あたりにはありました。こうしたいわゆる序列、ヒエラルキーは、日本人のムラ社会的な発想と親和性があるのかもしれませんが。発展して職場カースト、総合大学では学部カースト、お父さんはペットより上か下か切実な家庭内カースト、などもありました。今回諸君に提起したいのは、年収に表れるような社会的地位カーストが存在すると思いませんか、ということです。

上位の人を羨んだり妬んだり、下位の人を心の片隅で蔑んだり。経済力や学歴といったものを無意味だとは言いませんが、人と接するとき自分より上か下かが気になって仕方ないというのは、過剰です。マウンティングとかマルトリートメントというのも、その表れでしょう。

7年前の7月26日、津久井やまゆり園に侵入し、45人を殺傷した植松聖死刑囚は、「障害者に生きる価値はない」と言いました。口にするほどさげすまれますが、ネット上には共感する人が絶えません。これは明らかな誤りです。なぜなら、価値とは、物に対する評価だからです。人には使いません。人には尊厳があるのです。障害のあるなしや社会的地位が、人権や人の尊厳を脅かすのは許されないからです。カーストもあわせて、決して見誤ってはならない。固く肝に銘じておくべきです。

私は上野先生の祝辞から、ノブレス・オブリージュを連想します。「高貴な者に伴う義務」という意味。発祥は19世紀のフランスで、財力、権力、社会的地位を有する者には、それらに応じて果たすべき社会的責任と義務があるという概念です。恵まれない人に施すというような上から目線の発想ではありません。ノブレス・オブリージュは、社会的地位からくる驕り高ぶりを厳しく戒めるものなのです。

令和5年は、どのような1年になるのでしょうか。予測できない出来事もあるでしょう。わからないことも多いですが、確かなのは、伊奈学生諸君が努力を重ねることです。いかなる局面にあっても、諸君は努力を重ね、その才能を大きく開花させることです。さらに、その努力の果てに高い徳を身に付け、ノブレス・オブリージュを果たしていくことです。年頭に当たり、伊奈学生諸君に以上を期待します。